

コメント

岡本孝司

1. 海外戦略について

原子力発電所は、高い信頼性や高い技術力が要求される分野である。現在、日本は、そのハードウェアについては、世界トップクラスの実力を有している。

一方、規格基準や規制などのソフトウェアに関しては、海外の遥か後塵を拝している。PRA 活用など、韓国や台湾などに、既に大きく引き離されている分野もある。

世界では原子力発電が必要とされており、日本の得意分野である、技術力を積極的に協力する事で、アジア地区をはじめとする世界の発展に大きく貢献する事ができる。より安全な原子力発電システムを、世界に普及させることが可能となる。

国家ファンドを設立し、アジア地区をはじめとする各国への積極的な投資

現在、日本からアジア地区などに、ダムなど大規模な土木工事などによる積極な援助が進められている。原子力発電所への投資は、安定な電力や熱源を供給できることから、現地での様々な産業を育成する事ができる事もあり、現地に対して大きなメリットがある。電力や熱をベースとした地域産業が大きく発展していく事になる。軽水炉の投資には大規模な資金が必要であり、原子力初期導入国においてはハードルが高い。しかし、原子力への投資は、日本のためだけではなく、現地の発展にもつながり、大きなメリットがある。

日本が投資できないのであれば、他国によるアジア地域の原子力開発が進められることは明らかである。(例えば、韓国による UAE プロジェクトなどが現実的に進められている)。技術力の高い日本による原子力開発は、アジア地区全体の安全性向上にもつながる。

なお、中国は、大型軽水炉に加えて、超安全炉である高温ガス炉を戦略システムとして、世界中に売り込みを図っている。軽水炉だけではなく、高温ガス炉も日本の技術に一日の長がある。高温ガス炉は、どんな状態でも物理現象である輻射伝熱で燃料が冷えるので、地震などにも強い。燃料がセラミックスで覆われており、直接処分が比較的容易であるとともに、コスト的にも軽水炉よりも安価である。原子力初期導入国においても、比較的導入のハードルが小さい。例えば、軽水炉を中心とし、高温ガス炉をオプションとする戦略なども考えられる。

原子力初期導入国に向けた、国家ファンドによる投資戦略をまとめて、積極的に投資を進める事が、アジア地域の発展に大きく寄与する。

以上